

# 安曇野市水道ビジョン

計画期間：平成29年度～令和8年度

## 平成30年度 事業評価報告書

令和元年10月

安曇野市 上下水道部

## 安曇野市水道ビジョンの基本目標と基本方針について

厚生労働省では、時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道を理想像として掲げています。

安曇野市の水道も将来像の実現に向けて、様々な課題の解決に取り組むため、その取り組みの目指す方向性を次のように定めています。



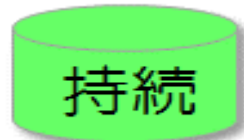
### いつ飲んでも安全な水道

いつでもどこでも、安全に飲める水道を目指します。



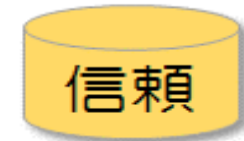
### 災害に強く、しなやかな水道

自然災害等で被災した場合でも、迅速に復旧できる水道を目指します。



### いつまでも地域にあり続ける水道

給水人口や給水量の減少に対しても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。



### 皆様に信頼され、共につくる水道

多様化するニーズに応え、世代を超えて利用される水道を目指します。

# 安曇野市水道ビジョンの施策体系について

## 基本理念

清らかで良質な水をいつまでも  
～信頼を未来へつなぐ安曇野の水道～

基本目標	主要施策	実現方策
<b>安全</b> いつ飲んでも 安全な水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>水源から蛇口までの徹底した水質管理</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携</li> <li>2 水安全計画の策定</li> <li>3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成</li> <li>4 水道管内の点検と洗浄</li> <li>5 濁度計の設置</li> </ol>
<b>強靱</b> 災害に強く、 しなやかな 水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害に強い施設の整備</li> <li>バックアップシステムの構築</li> <li>危機管理体制の充実強化</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化</li> <li>2 非常用電源設備の整備</li> <li>3 他水源からの配水が可能となる施設整備</li> <li>4 防災訓練の実施</li> <li>5 震災等を想定した災害対策マニュアルの作成</li> </ol>
<b>持続</b> いつまでも 地域にあり 続ける水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な施設更新と規模の適正化</li> <li>経営基盤の強化</li> <li>未普及地域への対応</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施</li> <li>2 水源施設の老朽化診断</li> <li>3 アセットマネジメントの実践</li> <li>4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討</li> <li>5 人口減少地域における消火施設のあり方の検討</li> <li>6 水道料金水準の適正化の検討</li> <li>7 水道への切り替えの推進</li> </ol>
<b>信頼</b> 皆様に信頼さ れ、共につく る水道	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者とのコミュニケーションの充実</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報公開の充実</li> <li>2 施設見学会の実施</li> <li>3 水道利用者のニーズの把握</li> </ol>

平成30年度の水道ビジョン進捗状況を

点検・評価しました。

□点検評価基準

以下の基準により、点検・評価を行いました。

評価基準		
達成率	評価	
95%以上	A	目標とおり
95%未満 85%以上	B	目標をやや下回る
85%未満	C	目標を下回る

※点検評価方法

実績率等 (①) を年次毎目標値 (②) で除した達成率 (①÷②) により評価しました。

例：平成30年度末の「濁度計の設置」

- ・20か所 (100%) 設置が最終目標値 (水道ビジョン策定時は5か所設置済、25%整備)
- ・平成30年度に1か所設置により、計6か所設置済
- ・実績率は6か所/20か所で30%
- ・30% ÷ 35.25% × 100 ÷ 85% ⇒ 「B」

定量的な評価が難しい項目について

達成率について、定量的な評価が難しい項目は下記一覧表で「空欄 (目標値備考欄：定量困難)」となっているが、以下の要領で評価しました。  
 「具体的に〇〇に取り組んだ。」 「予定していた事業を完了し、予定通りの成果が出ている。」 場合は「A」  
 「〇〇を検討している。」 「取組を開始してる。」 場合は「B」  
 「未着手」の場合は「C」。

(単位：%)

実現方策			年次毎目標値② (水道ビジョン方策数値年度按分)										目標値備考	策定時 数値 a	中間 目標値 b	最終 目標値 c	ビジョン 掲 載 ページ
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目					
20件			H29度	H30度	R元度	R2度	R3度	R4度	R5度	R6度	R7度	R8度					
安全	1	水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携											定量困難				
	2	水安全計画の策定	-	50	100	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100	34
	3	水質事故発生時の行動マニュアルの作成	-	50	100	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100	
	4	水道管内の点検と洗浄											定量困難				
	5	濁度計の設置	-	35.25	45.5	55.75	66	66	74.5	83	91.5	100	整備率	25	66	100	
強靱	1	指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化	-	27.98	33.45	38.93	44.4	49.88	55.36	60.84	66.32	71.8	耐震化率	22.5	44.4	71.8	
	2	非常用電源設備の整備	-	-	-	-	25	-	43.75	62.5	81.25	100	整備率	25	25	100	
	3	他水源からの配水が可能となる施設整備	-	33.33	66.67	100	-	-	50	100	-	-	整備率	-	-	-	
		(1) 豊科・明科地域整備事業	-	33.33	66.67	100	-	-	-	-	-	-	整備率	-	100	100	
		(2) 穂高豊里整備事業	-	-	-	-	-	-	50	100	-	-	整備率	-	-	100	
4	防災訓練の実施											定量困難					
5	震災等を想定した災害対策マニュアル	-	-	100.00	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100		
持続	1	老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施	78.64	79.38	80.12	80.86	81.6	82.36	83.12	83.88	84.64	85.4	有収率	77.9	81.6	85.4	42
	2	水源施設の老朽化診断 (14か所)	21.4	42.8	64.2	78.4	92.6	100	-	-	-	-	調査率	0	92.9	100	
			3/14	3/14	3/14	2/14	2/14	1/14									
	3	アセットマネジメントの実践											定量困難				
	4	施設の統廃合やダウンサイジングの検討	-	-	50	-	75	100	-	-	-	-	進捗率	0	75	100	
		(1) 豊科・明科地域整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
		(2) 明科潮沢系施設の再構築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
5	人口減少地域における消化施設のあり方の検討											定量困難					
6	水道料金水準の適正化の検討											定量困難					
7	水道への切り替えの推進					99.6					100	普及率	99.3	99.6	100		
信頼	1	情報公開の充実											定量困難				44
	2	施設見学会の実施											定量困難				
	3	水道利用者のニーズの把握											定量困難				

## 安曇野市水道ビジョンの平成30年度施策の点検評価結果

### 1 平成30年度施策の点検評価結果の概要

実現方策20件のうち来年度以降の施策2件を除く18件について評価した結果、A評価9件、B評価4件、C評価5件となった。  
C評価の施策の要因は、未着手によるもので、課題を解消し目標達成を目指す。

### 2 基本方針別の評価結果と今後の課題・方向性

#### (1)安 全

- ・徹底した水質検査により安全性を確認することができた。今後も適切な水質管理を行う。
- ・目標未達成の「水安全計画の策定」の作成に関しては令和元年度に着手したが、水質事故発生時行動マニュアル作成と並行して作業を進める。

#### (2)強 靱

- ・耐震化(主要管路整備)はおおむね順調に進んでいるが、今後は市街地における施工を伴うため、入念な給水ルートの確認が必要である。
- ・豊科・明科地域整備事業は令和2年度の完了に向け、綿密な工程管理を組みながら進める。

#### (3)持 続

- ・施設更新と規模の適正化についてはおおむね順調に進んでいる。
- ・老朽化診断において、今後予定している水源施設で既に調査済の施設が含まれているため、今後診断箇所の調整を行う。
- ・合併後の大きな課題であった水道料金の統一ができた。
- ・「人口減少地域における消火施設の在り方の検討」、「水道への切り替えの推進」に関しては、未着手であるため作業の早期着手を図る。

#### (4)信 頼

- ・既に水道は普及浸透しているため、利用に関する要望は多く寄せられないが、水道に対するニーズ等の把握のためアンケートを実施しサービス向上を図る。
- ・水質検査結果や水道事業会計の財務状況など情報発信はしているが、より水道の大切さを理解してもらうために利用者とのコミュニケーションの充実を図る。



水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	内容	平成30年度				評価	コメント欄	
					目標	実績	実績率等①	達成率			
安全 いつ飲んでも安全な水道	34	水源から蛇口までの徹底した水質管理	1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携 (H29～R8)	畑作地帯（三郷・堀金の過剰施肥箇所）における水質検査結果の推移を記録し、必要に応じ長野県薬剤師会と連携の下、対応する。	①水質検査の公表を毎月更新で実施 ②水質異常の際は関係機関へ即座に水質検査を実施依頼を行う ③畑作地帯の水源水質結果の推移の確認	①毎月実施できた。 ②関係機関との連携は問題なく実施できた ③水質検査の結果、数値はすべて基準値以内であった。	実績率 -	-	A	成果 水質検査により安全性を確認できた。	
			課題 特になし。	今後の方向性 引き続き水質検査の推移を確認していく。							
			2 水安全計画の策定 (H30～R元)	現在の給水システムに内在する、水道水質に対して脅威となるリスクを特定し、それらを包括的に制御するための管理体制及び監視体制を確立する。	①水道施設の各システムを災害時に関係者が操作できるようにするためのマニュアルを作成。 ②管理手段の方向を整理する	①②共に未着手	年次目標値に対する実績率 0%	0%	C	成果 -	課題 人材不足による水質管理や維持管理等技術の継承。技術職員の不足や施設数が多いため、運転管理マニュアル等の整備に時間がかかる。
			今後の方向性 現在策定作業中。管理手段の検討等を行い、水質事故発生時の行動マニュアルの作成と並行して進めていく。								
			3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成 (H30～R元)	「水安全計画」の策定に合わせ、水質事故等異常事態発生時における対応を確立、文書化する。	①水安全計画作成と並行して行うため、作成手順システムの構築	①未着手	年次目標値に対する実績率 0%	0%	C	成果 -	課題 水安全計画策定作業に時間を要しているため未着手状態。また、現行の水質事故発生対応マニュアルは、濁水に対する対応のみ。
今後の方向性 現行のマニュアルを基として、行動マニュアルの再整備を早期に着手する。											
4 水道管内の点検と洗浄 (H29～R8)	排泥管を設置し水道管内のカメラ点検、管内洗浄を実施する（カメラ点検はR2度～）。	豊科地域排泥管30か所設置。	豊科地域排泥管27か所設置（必要箇所の精査により27か所の設置となった）。	実績率 -	-	A	成果 豊科地域には排泥施設が少なかったため、排泥施設増設により濁度発生時の排泥対応及びカメラ点検の可能な箇所が増えた。	課題 管洗浄の事前準備となる効率的な箇所の選定及び検討が必要。			
今後の方向性 カメラ点検及び管洗浄可能な大口径管への設置も進める。											
5 濁度計の設置 (H30～R8)	8か所の拠点配水池水源に濁度計を設置する。（未整備水源15か所）	①上長尾1号水源地に1基設置 ②上原3号井に1基設置	①のみ実施 ②は実施できなかった	年次目標値に対する実績率 30%	85%	B	成果 三郷上長尾配水池系統に対しては濁度対策が進んだ。	課題 設置費用が高額のため、中長期的な設置計画の見直しを要す。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     計画当初5か所設置済。H30は1か所設置により計6箇所へ。                      最終目標は20か所設置。6か所/20か所=30%  <math>30\% \div 35.25\% \times 100 = 85\%</math> </div>	今後の方向性 設置箇所の見直しを検討する。										

水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	内容	平成30年度				評価	コメント欄		
					目標	実績	実績率等①	達成率				
強靱 災害に強く、しなやかな水道	39	災害に強い施設の整備	1 指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化 (H30～R8)	水源から拠点配水池までの導・送水管、および拠点配水池と重要給水施設をつなぐ配水管を主要管路と定め(L=14.6km→64.7km)優先的に耐震化を進める。	主要管路整備 豊科・三郷・穂高 計L=2,140m	主要管路整備 豊科L=746.6m 三郷L=657.5m 穂高L=649.5m 計L=2,053.6m(2.1km)	年次目標値に対する実績率  25.8%	92%	B	成果 水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ給水ルートの耐震化を、計画どおり進めることができた。		
					当初耐震化率22.5% 14.6km(整備前) 64.7km(目標値)					課題 今後、穂高地域は配水管による給水ルートへの工事へ移行し、市街地での施工を伴うため、事前の綿密なルート確認作業及び工事施工計画が必要となる。		
				2 非常用電源設備の整備 (R5～R8)	8か所の拠点配水池に非常用発電機を整備する。 (未整備箇所6拠点配水池)	令和5年度：上原・豊里、令和6年度：川西、令和8年度：上長尾・宮城・堀金						
				バックアップシステムの構築	3 他水源からの配水が可能となる施設整備 (豊科・明科地域整備事業分 H29～R2)	①豊科・明科地域整備事業 (明科第2水源から豊科田沢地区への送水管の整備) ②穂高豊里整備事業 (R5～)	送配水管布設工事 L=1,650m見込 明科地域3工区～6工区の4件を計画	送配水管布設工事の実施。 L=1,571m 計画とおり4件の工事を完了。	年次目標値に対する実績率  33.3%	100%	A	成果 当初計画とおり、3、4、5、6工区の布設工事を完了することができた。
								年次目標値 整備率 33.33%				課題 計画実施期間が限られている中での工事完了であるため、事業の前倒しも視野に入れ、計画の再検討が必要。
			4 防災訓練の実施 (H29～R8)	毎回テーマを変えて継続的に実施し、その結果は今後策定予定の「災害対応マニュアル」等へ反映させる。	年1回以上実施。 安曇野市総合防災訓練の実施と併せ、災害対策本部を立ち上げ、関係機関と共に招集訓練・図上シミュレーション・被害状況確認訓練等実施。	9月2日(日)に実施。 大規模地震を想定した防災訓練を応援事業体と合同により実施できた。	実績率  -	-	A	成果 訓練の実施により、迅速かつ的確な応急対策の諸活動の確認を行った。		
			5 震災等を想定した災害対策マニュアル (R元)	災害時等において迅速かつ適切に対応するための、災害対策マニュアルを整備するとともに、防災訓練の結果や実際の事故対応の検証等を踏まえ、随時更新する。	令和元年度：災害対策マニュアルの策定					課題 当分想定災害は震災をテーマとして行うが、今後テーマを変えた取り組みを検討する。		
										今後の方向性 引き続き緊張感をもった訓練となるよう体制を整える。		

水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	内容	平成30年度				評価	コメント欄							
					目標	実績	実績率等①	達成率									
持続 いつまでも 地域にあり 続ける水道 1 / 2	42	計画的な施設 更新と規模の 適正化	1 老朽管の計画的な 更新と漏水調査の 実施  (H29～ R 8)	○昭和50～60年代に布設 された塩化ビニール管の 布設替を進める。  ○漏水調査により漏水箇 所を特定し、修繕・布設 替等の対応を行う。	配水管（老朽）布設替工事14 路線 L = 5, 580m 見込。  有収率82.2%→	22路線 L = 5, 390m 実施。予定箇 所全て実施済。  有収率82.2%→	年次目標値 に対する実 績率  82%	103%	A	成果	計画していた路線に関しては予定箇所全て実施し、併せて予定地区の漏水調査をし確認箇所の漏水対策修繕を行い、有収率1.9%の上昇をすることができた。	課題	老朽管の計画的な布設替は重要だが、他の事業と並行して実施していくので、施工延長を伸ばすことが難しい。漏水調査は、漏水発生箇所を中心に進めていくが調査範囲の絞り込みが容易でない。	今後の方向性	今後も漏水調査と老朽管の布設替を並行実施し、有収率の向上を図る。		
			2 水源施設の老朽化 診断  (H29～ R 4)	耐用年数が経過する水源 施設（14か所）に対する 調査を実施する。  H29度3/14か所、H30度3/14か所予定 H29度3か所+H30度実績2か所＝計5か所設置済。 5÷14×100=35.7%	更新基準年数の経過している 水源施設（井戸内部）の調 査、診断（上鳥羽水源・飯田 水源・堀金第3水源）を実施 し、診断結果を元に水源施設 の更新計画を立てる。	上鳥羽水源・飯田水源の2水源 老朽化診断実施。 劣化した揚水管・水中ポンプの 交換を実施した。 また、井孔内のTVカメラによる 調査を行い、井戸の腐食度は 低いと診断された。 堀金第3水源は安定配水に懸念 があったため未実施。	年次目標値 に対する実 績率  35.7%			83%	B	成果	2か所の水源施設の調査と、揚水管・水中ポンプの更新を進められた。  ↓35.7%÷42.8%×100≒83%であるが、安定配水を配慮した結果の1か所未実施であるためB評価とした。	課題	水源が少ない場合、止めてカメラ調査ができない。	今後の方向性	H24に調査済みの井戸や耐用年数に達していない井戸が対象となっているため、再度調査箇所を検討する。
			3 アセットマネジメ ントの実践  (H29～ R 8)	ポリスリーブ巻付等管路 の長寿命化対策を踏ま え、実効性のある更新基 準を設定し、適切な更新 需要を算出する。	①布設（替）する全ての鑄鉄 管にポリスリーブ巻を行う。  ②更新については、設備投資 計画及び目標値を設定し更新 する。	①布設（替）工事の鑄鉄管全て にポリスリーブ巻を施工。  ②投資計画及び目標値に基づき 翌年度の実施計画を策定済。	実績率  -					-	A	成果	ポリスリーブ巻は鑄鉄管すべてにおいて実施。投資計画に基づく次年度施工予定箇所については、事前設計を行い効率的に発注し施工できた。	課題	実施計画による工事発注をする中で、漏水事案等による突発的な施工順位の変更への対応が容易でない。
			4 施設の統廃合やダ ウンサイジングの 検討  (豊科・明科地域 整備事業分 H29～ R 2)	配水池45池→ 41池、 ポンプ場18か所→ 15か所 ①豊科・明科地域整備事 業（既設配水池等の統廃 合） ②明科潮沢系配水施設整 備事業（配水池・ポンプ 施設等の統廃合） 【R3度～】	配水池3池廃止し光配水池に 統合する。	光配水池増設工の実施 PC構造 V = 1, 500m <sup>3</sup>	年次目標値 に対する実 績率  -	100%	A	成果	豊科・明科地域整備事業を（H29～R2）計画とおりに実施した。			課題	明科潮沢系配水施設整備事業に関して、地すべり地帯や生活戸数など山間部の課題があり、事業の見直しが必要となる。	今後の方向性	豊科・明科地域整備事業はPCタンク完成に伴い順次進める。配水池の統合は令和3年度から実施予定。明科潮沢系配水施設整備事業に関しては再検討を含め、令和3年度からの計画を令和5年度へと変更したい。
			5 人口減少地域にお ける消火施設の在 り方の検討  (H29～ R 3)	消火栓に替わる防火水槽 の設置を検討する。	地域住民と防災担当と協議体 制の構築。	未実施	実績率  0.0%			0%	C	成果	-	課題	消火栓から防火水槽への必要性の説明と防火水槽設置場所の確保、所有者の承諾等。危機管理課との事前協議体制の構築。	今後の方向性	地元（区長等）打合せや地元調整会議を実施。危機管理課との打合せの実施。



水道ビジョン点検・評価シート

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	内容	平成30年度				評価	コメント欄
					目標	実績	実績率等①	達成率		
持続  いつまでも地域にあり続ける水道2/2	42	経営基盤の強化	6 水道料金水準の適正化の検討 (H29～R8)	適正な給水原価のもとに、料金水準等の妥当性を定期的に検討する。	①12月までに上下水道事業経営審議会より答申を受ける。 ②答申に基づき平成31年3月議会で給水条例の改正を目指し平成31年10月からの料金改正を実施。  ③平成31年1月に市内5会場で12回にわたり市民説明会開催。  ③安曇野市給水条例の改正を3月議会で議決。令和元年10月施行	①平成30年12月17日答申を受けた  ③安曇野市給水条例の改正を3月議会で議決。令和元年10月施行	実績率 -	-	A	成果 地域毎に異なっていた料金が統一できた  課題 料金改定直前、直後の市民の問い合わせが多くなると思われる。  今後の方向性 ・今回は5地域の料金格差の解消の料金改定であったが、今後は経営実態に見合った料金改定の検討が必要。 ・料金改定の内容の説明責任を果たす。
			7 水道への切り替えの推進 (H29～R8)	井戸利用者に対して水道水の安全性のPRを行う。	水道普及率が水道ビジョン策定時に99.3%と高数値であり、ほぼ普及している状況であるため、接続要望相談の際は個別に対応を行う。  併せ、水質検査結果を市ホームページで公開。	未実施	実績率 -	-	C	成果 -  課題 水道への切り替え促進を図るために、対象者名簿の作成が急務である。  今後の方向性 環境課の井戸利用者名簿と水道台帳を突合すると共に、年度毎に対象地域を決めて実態調査をし、水道水の安全性PRを図る。
信頼  皆様に信頼され、共につくる水道	44	利用者とのコミュニケーションの充実	1 情報公開の充実 (H29～R8)	○水質検査結果について、より分かりやすい形での提供を行う。  ○経営状況(分析)を定期的に公表するほか、子供向けの情報発信も充実させる。	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新する  安曇野市ホームページで公営企業予算・決算、経営比較分析表を公開する。	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新した。  安曇野市ホームページで公営企業予算・決算、経営比較分析表を公開した。	実績率 -	-	A	成果 水質状況や経営状況を的確に発信できた。  課題 子供向けコンテンツがない。よりわかりやすい広報のため、内容の充実が必要。  今後の方向性 水質検査、経理関係の情報公開は継続して実施を行う。子供向けコンテンツの充実を図る。
			2 施設見学会の実施 (H29～R8)	一般の方々を対象とした施設見学会を実施する。	公開講座、地域からの要請により施設見学会をその都度開催する。  (年1回)	未実施	実績率 -	-	C	成果 -  課題 施設見学メニューの検討を要す。  今後の方向性 見学会の実施を検討する。
			3 水道利用者のニーズの把握 (H29～R8)	水道利用者へのアンケートを実施し、お客様サービスの向上を図る。	アンケート実施に替わり、平成30年度は料金改定に関する市民説明会を実施。	平成31年1月に市内5会場で12回にわたり料金改定に関する市民説明会開催。  料金統一・水道事業に関するご意見・質問に対し回答した。	実績率 -	-	B	成果 当初目標のアンケート実施が出来なかったため、より多くのニーズを把握できなかった。  課題 回答率の上がる設問の検討が必要。  今後の方向性 令和元年度に政策経営課で実施する行政アンケートに上水道課項目を記載し、アンケートを実施する。(設問は、3～5項目で行う。)

平成30年度の財政計画と決算比較表

単位:千円、税抜

収益的収支		財政計画 A	H30決算額 B	比較 B-A	説明
収入	1 営業収益	1,886,296	1,895,413	9,117	
	うち給水収益	1,737,708	1,741,843	4,135	
	2 営業外収益	290,670	289,798	▲ 872	
	うち長期前受金戻入	281,547	286,564	5,017	
	収入計 ①	2,176,966	2,185,211	8,245	
支出	1 営業費用	1,657,269	1,620,091	▲ 37,178	動力費等の削減のため減
	うち減価償却費	1,048,415	1,031,904	▲ 16,511	工事請負費等の削減のため減
	2 営業外費用	148,990	151,551	2,561	
	うち支払利息	146,013	146,013	0	
	支出計 ②	1,806,259	1,771,642	▲ 34,617	
経常損益 ①-②		370,707	413,569	42,862	

単位:千円、税込

資本的収支		財政計画 A	H30決算額 B	比較 B-A	説明
収入	1 企業債	169,000	122,000	▲ 47,000	起債対象事業費の減
	2 他会計出資金	204,300	332,600	128,300	H29からH30へ豊科明科地域整備事業繰越のため増
	3 補助金	127,957	78,235	▲ 49,722	豊科明科地域整備事業量の減
	4 工事負担金	28,965	41,557	12,592	消火栓設置等工事負担金の増
	5 その他(分担金)	42,512	40,336	▲ 2,176	
	収入計 ①	572,734	614,728	41,994	
支出	1 建設改良費	1,361,856	1,454,943	93,087	H29からH30へ豊科明科地域整備事業繰越のため増
	2 企業債償還金	572,850	572,850	0	
	支出計 ②	1,934,706	2,027,793	93,087	
資本的収入が支出に不足額 ①-②		▲ 1,361,972	▲ 1,413,065	▲ 51,093	
補填	補填財源(損益勘定留保資金)	819,069	867,879	48,810	
	補填財源(建設改良積立金)	450,000	450,000	0	
	補填財源(消費税調整額)	92,903	95,186	2,283	
	計	1,361,972	1,413,065	51,093	
年度末補填財源残高		2,270,926	2,531,508	260,582	当期純利益の増
企業債残高		6,650,576	6,603,580	▲ 46,996	企業債借入額の減